

せいすい 生水だより



備えあれば
憂いなし!

令和2年9月号
No.66

上下水道部ホームページは、市ホームページから「生駒市水道事業」へアクセス
☎上下水道部工務課・総務課(☎79-2800)

大規模災害で断水した どうやっていくなの？

水道事業では、大規模災害に備えて水道施設の耐震化などの対策を進めています。

しかし、地震や集中豪雨などにより、水道施設に甚大な被害がもたらされ断水が発生するかもしれません。今回は、断水が発生したときに行う応急給水について紹介します。

Q: 断水したら、どうして飲料水をもらいにいったらいいの？

A: 指定避難所に給水所(応急給水拠点)を開設します。
市内の小中学校や公共施設

など32か所の避難所に給水所を開設する予定です。ただし、断水の発生状況により給水所の開設場所や給水時間などは異なります。詳細な情報は、生駒市上下水道部のツイッターや市ホームページ、広報車のアナウンスなどで確認してください。



▲避難所情報はこちら

給水所には、給水車が巡回し、避難所のスタッフや地域の自主防災会のメンバーが給水します。

Q: 給水所へは手ぶらで行ってもいいの？

A: 水を持ち運びしやすい清潔な容器を持参してください。

水道事業で、携帯用飲料水袋(6ℓ)を備蓄しています。市水の皆さん全員の分は用意できません。日頃から飲料水用のポリタンクなどを準備してください。

また、水1ℓの重さは1kgなので、容器に水を満タンに入れると、見た目以上に重くなります。台車など運搬する



背負える携帯用飲料水袋

水道NEWS

省エネ取組で

Sクラス評価を獲得

水道事業では、効率的に水を届けるために送水ルートを変更し動力を大幅に削減するなど、これまで省エネルギーの取組を進めてきました。その結果、過去5年間平均でエネルギー消費量を約1%低減。資源エネルギー庁から2019年度省エネ優良事業者(Sクラス)の評価を受けました。

また、令和元年度には、ひかりが丘配水場から各家庭に水を送るための電気設備を更新。さらなるエネルギー使用の削減に取り組ましました。

▶問合せ 山崎浄水場(☎74-2216)



新しくなったひかりが丘配水場の電気設備

■日常生活の中での準備
災害などにより断水が発生した場合、応急給水活動が軌道に乗るまでの約3日間は、市民の皆さんで飲料水の確保をお願いします。備蓄の目安は、1人1日3ℓを3日分です。

ただし、飲料水は「水」だけではありません。「お茶」や「清涼飲料水」も飲料になります。日頃飲んでいる「飲み物」をローテーションして使うことで自然と備蓄にもなります。

また、飲料水とは別に生活用水も必要です。お風呂の浴槽に水をためておくのも備えになります。



ポリタンクを持って、水をもらいに行こう